

登録コード	HM105902	開講年度	2026				
授業題目	分子病態学論文演習					担当教員	山本 雄介
英文授業名	Thesis Seminar in Molecular Pathophysiology					副担当	
単位数	2	講義期間	通年	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	大学院生（博士課程）
講義室				授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	(授業の達成目標)
	2026HM医学分野初，2025HM医学分野初						
	【専攻】医学・保健学研究において基礎・応用・臨床の枠を越え、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力					⇔	分子病態学および腫瘍生物学分野の研究において、専門論文の内容の本質を読み解き、受講者の研究課題において解決方法を見出す洞察力を身に付ける。
(2)詳細/Detailed information	関連する論文の内容を読み解き、その中から、受講者の研究活動を行う上で必要な情報や技術を学ぶ。それらを受講者の研究内容にどのように生かしていくかを学ぶことで、より最適かつ高度な研究の論理展開や技術の導入を可能にするように訓練する。						
(3)授業の概要/Overview of course	医学データベースを用いることで、受講者の研究内容に則した最新の学術論文を選定する。分子病態学および腫瘍生物学における新たな知見を習得するとともに、著者の意図や技術的工夫を理解し、自身の研究に活かす力を養う。授業においては、論文の内容を分かりやすく伝えるためのプレゼンテーションを実施し、著者の意図や自身の考察を的確に伝えられるような発表技術を習得する。また、他受講者のプレゼンテーションを参考にすることで、自身の発表技術の向上にも努める。						
(4)授業計画/Course plan	分子病態学および腫瘍生物学分野に関わる論文をとりあげ、論文の内容および分析の仕方などを指導する。(15回)						
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	受講者の選定した論文に対する理解度と、プレゼンテーションの内容総合的に判断して評価する。 成績評価の基準： 適切な論文検索と英語学術論文の内容を理解した発表を行うことができれば、「合格水準にある（可）」、英語学術論文の研究背景の理解やデータの精査とプレゼンテーションが、良好にできれば「やや上にある（良）」、優れていれば「かなり上にある（優）」、感心できるレベルにあれば「卓越している（秀）」。						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	事前に論文検索を行い、プレゼンテーションを行う論文を決定し、抄読会の準備を行う。						
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	随時質問を受け付ける。メールの場合はyuyamamo@ncc.go.jp						
(8)授業の形式/Course format	最新研究論文をベースとした抄読会。プレゼンテーション形式により実施。						